

「鹿角の風土を詠んだ人々」 —歌碑や句碑を中心に—

ここ鹿角には、いにしえより数多くの文人たちが歌枕の里「錦木塚」などを訪れ、鹿角の風土・歴史・文化にふれた作品を残しています。今回の展示では、近代の鹿角の歌人・俳人を中心とした、ふるさと鹿角を詠んだ歌碑や句碑などを取り上げました。また碑文に刻まれた作者や建立者の思いなども紹介しました。

歌碑や句碑などが建立されているゆかりの場所を巡りながら、ふるさと鹿角の風情や風景にふれて見ませんか。

展示している人々について

赤城 文治 (本名 赤坂 文弥) 1900(明治33)年～1956(昭和31)年
東北アララギ歌壇で活躍した歌人、教育者。花輪小学校校歌を作詞。

浅井 小魚 (本名 末吉) 1875(明治8)年～1947(昭和22)年
大湯環状列石を発見した俳人・郷土史家。

阿部 胡六 (本名 六郎) 1893(明治26)年～1974(昭和49)年
大正・昭和期の教育者、文化人。小田島樹人の弟で音楽に造詣が深かつたが、それ以外にも各分野で活躍した。

石川 啄木 (本名 一) 1886(明治19)年～1912(明治45)年
「鹿角の國を憶ふ歌」「錦木塚」を詠んだ歌人・詩人。母方の曾祖母は毛馬内の常照寺に生まれた。

小田島 岷子 (本名 徳藏) 1882(明治15)年～1969(昭和44)年
花輪俳談会の創立者。小田島樹人の兄。昭和17年より21年まで尾去沢町長を務めた。

金子 定一 1885(明治18)年～1960(昭和35)年
日本の陸軍軍人、政治家。岩手県出身。昭和11年少将で予備役編入。太平洋戦争後は在野の歴史家として活動し、奥羽史談会の会長をつとめた。

鎌田 露山 (本名 倉藏) 1891((明治24)年～1966(昭和41)年
毛馬内俳句会を指導した俳人。昭和6年ごろから十和田湖畔でヒメマスの養殖を手伝いながら、文人墨客と交わり句作に精進した。

佐藤 正二 1913(大正2)年～1981(昭和56)年
昭和期の鹿角を代表する歌人、百人一首の振興に尽力。「花輪短歌会」を中心に「花輪かるた同好会」などで仲間を指導した。

杉村 楚人冠 (本名 広太郎) 1872(明治5)年～1945(昭和20)年
八幡平・湯瀬温泉を世に紹介したジャーナリスト。昭和9年、八幡平のトロコで落馬して湯瀬温泉に逗留し八幡平・湯瀬温泉を全国に紹介。昭和10年には落馬した現場に落馬記念碑が建立された。

すわ とみた
諏訪 富多

1883(明治16)年～1981(昭和56)年
地域産業、観光振興に貢献した東北有数の文化人。大湯環状列石の特別史跡指定への道を開き、靈泉と号し、書画のほか短歌、漢詩などをよくした。

せき きゅうべえ
関 久兵衛 (三代目)

1826(文政9)年～1907(明治40)年
鹿角郡初代の県会議員、産業の振興と文化の発展に寄与。「一閑」と号して活躍し俳句の普及に努めた。

たはら とうた たけし
田原 東太 (本名 武)

1916(大正5)年～1996(平成8)年
「みづうみ俳句会」会長として後進の指導に尽力。盟友高橋道人と共に鹿角市を代表する俳人として、活動した。

とよぐち きよし
豊口 清志

1885(明治18)年～1952(昭和27)年
「どじょっこふなっこ」の採録者。「どじょっこふなっこ」は北東北に流布する民謡・わらべ歌のようなものを明治34年頃、豊口清志が歌詞を作り詩吟調で歌い上げたものといわれている。

なかしま こういち
中島 耕一

1903(明治36)年～1949(昭和24)年
花輪短歌会の発端を作った県歌壇の指導者。花輪短歌会の発端となつた同人誌『草の実』を発行し、後に秋田魁新報に入社してさきがけ歌壇の選者をつとめ、秋田短歌会でも活躍した。

なりた ためぞう
成田 為三

1893(明治26)年～1945(昭和20)年
名曲「浜辺の歌」の作曲者。毛馬内小学校で音楽教育に注力し、東京音楽学校(現東京芸術大学)に進学して、山田耕筰に師事した後、「赤い鳥」の専属作曲家として活躍した。

まえだ ゆうぐれ ようぞう
前田 夕暮 (本名 洋造のち洋三)

1883(明治16)年～1951(昭和26)年
自然主義の代表的歌人。昭和5年7月に十和田湖を訪れ「あざやかな青天の虹鱒(ニジマス)」と歌い、歌碑が建立された。

むらかみ もりこう まさみ
村上 盛公 (本名 政身)

1921(大正10)年～2018(平成30)年
尾去沢さつき句会で活躍した俳人。「さつき会」は花輪高校の俳句講習会の尾去沢の受講生らが週一回の句会を開いたのが始まりとされる。

むらき せいいちろう
村木 清一郎

1887(明治20)年～1966(昭和41)年
歌人・鹿角のアララギ指導者。大正5年から昭和32年まで学校教育に携わる。「万葉集」を研究。昭和31年「花輪高等学校校歌」作詞。

やなぎさわ ひめ
柳沢 ヒメ

1929(昭和4)年～1978(昭和53)年
牛飼いの歌を詠み続けた歌人。大湯町宮野平に生まれ、祖母を助けて農業に従事。祖母の死後は一人で牛の飼育に専念する。昭和46年、十和田短歌会に入会し生活体験を歌に詠み続けた。

わたなべ もりじょ とみ
渡部 森女 (本名 トミ)

1890(明治33)年～1930(昭和5)年
鹿角を代表する女流歌人。実兄小田島樹人の勧めで俳句に親しみ、女流俳人として、森女の名前で知られるようになった。